

泌尿器科診療の最新スタンダード 平成の常識は令和の非常識

企画にあたって

最近の医療の進歩には目まぐるしいものがあり、泌尿器科学も例外ではありません。その進歩をわかりやすくお伝えするのが、「臨床泌尿器科」誌の役目と考えております。かつて習った常識が現在では通じないことが多々あります。本特集で泌尿器科学全体を見渡してみましょう。まずは、次の5つの泌尿器癌の「常識」を見てみましょう。

- ①腎細胞癌の乳頭型はタイプ1と2に分けられる。
- ②低異型度の尿路上皮癌は高異型度を経て浸潤性尿路上皮癌になる。
- ③精巣胚細胞腫瘍はセミノーマと非セミノーマに分類する。
- ④陰茎癌は扁平上皮癌であり、通常型と7つの亜型に分類する。
- ⑤後腹膜肉腫の一次治療の化学療法はドキソルビシンが中心であり、二次治療で有効な薬剤に乏しい。

これらのいくつかが皆様にとっての常識でしょうか？ これらはすべて平成の常識であって、現在（令和）の常識ではありません。1つでもあなたにとっての「常識」だとしたら、ぜひ本特集を手にとってください。上記はほんの一部にしか過ぎません。

最初にコラムを設けて、以前の常識と現在の常識を明確に対比させています。まずはここを眺めていただき、本文に進んでください。3部構成になっていて、①どう変わったのか、②変わったことによる注意点、③今後さらに変わりそうな点と、順を追ってわかりやすく解説されています。

読者の皆様はこの大きな変化と流れ、将来像に度肝を抜かれることでしょう。まさに泌尿器科学の世界においては、「平成の常識は令和の非常識」です。

慶應義塾大学医学部
泌尿器科学教室

大家 基嗣